

「65歳問題」を考える～高齢化する当事者の支援の悩みに応えて～ 受講者の感想より

講義Ⅰ「現場で感じる介護と障害 ～同じところ・違うところ～」について

・ICFのプラス面からみるように視点を転換すること（できないことを探すのではなく、出来ることを探すこと）、サービスのバランス（依存より達成感が高くなるように）、8050問題は一般社会の問題と障害者では逆（80才の親が障害のある子供のことを考えなければいけない）ということ等、大変参考になりました。

・「寄って集ってその人を幸せにすること」を今一度振り返り、支援のありかたを考えたいと思います。

・国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への流れ、障害福祉施策の歴史、地域包括ケアシステム、障害者の現状について理解につながりました。

・業務上は障害福祉サービス中心になってしまうことが多いですが、改めて介護保険の経緯や障害の制度等の流れをみることで、重なる部分、違いの部分が整理できて良かったです。

障がい者の高齢化も進んでおり、フレイルについても参考になりました。

・考え方と制度移行が繋がっているということがとてもよくわかりました。

・私は週に3日勤務の生活支援員です。今回研修を受け、障害者福祉の制度等学べたことで、65歳を迎える通所者のことを考えていくよいきっかけになりました。先生が話された「寄って、集って、みんなで考える」!! その一員として、これから通所者と良いかかわりをしていきたいと思いました。

講義Ⅱ「介護の本質を考える～皆さんの悩み解決のヒントに～」について

・市町との連携が大切な事がよくわかった。

・他事業所からのアンケート今後の支援に参考にさせていただきます。

・国際生活機能分類(ICF)において3つのキーワード①生活機能②分類法③プラス面をふまえて活用し、相互関係を含め、ひとりの利用者の全体像を捉える考え方が大切であることが分かりました。

「障害福祉施策サービス利用者など的高齢化に関するアンケート」は今後の業務の参考にしたいと考えています。

・障害者施設では高齢になった方の次の場所が難しいのが現状で、その方の家族がいるうちに色々話し合っておかないといけないと実感しました。ですが、利用者に対して理解のある家族だけではなく、家族調整も難しい方もいらっしゃいます。その方に関しては施設の職員で話し合い、より良いサービスができるように社会資源の活用も考えていきたいと思います。

・高齢化がすすむなかで、利用者が障害施設で暮らし続けるのか、高齢者施設に行くことが本人の幸せなのか…、の判断が難しいと感じています。

・「65歳問題」はさまざまな問題あるが、それぞれのケースで違うため、その都度集って考えていくことが大切と学びました。

・高齢化に伴って、どんな視点で、業務にあたったらよいか、ヒントになった。

やはり「答えはない」な、と思います。だからこそわたしたち支援者が、どうあるかが重要だと感じました。

・ケース by ケースでひとつの答えはなく…とのことでしたので、事例集的なものがあればすごく

参考になると感じました。

- ・例として、なでしこ園の様子や、当事者とのかかわり方を教えていただき、参考にすることができました。ありがとうございました。
- ・すぐにでも自分達が行き組んでいかなければいけない課題であり、勉強になりました。

*研修会全体について

- ・ZOOM を使った研修は参加しやすいので今後も継続して欲しい。
- ・橋先生の幅広い知識、大変勉強になります。
- ・今回研修はとても良かったです。「65才問題」を考える を今後も研修テーマにお願いします。
- ・成年後見人制度について、具体的に親御さんに伝えるためには
- ・今回の研修で学んだことを職員間でも共有していきたいと思えます。
- ・65歳問題、深く考えたことがなく、受講させていただき、早くから色々と考えていかなければいけないと思いました。